

大学生による災害・防災ボランティアができる活動について

杉野 恵¹⁾, サラマイテ・トエスン¹⁾, 林 越麟¹⁾, 村田 明広²⁾, 西山 賢一²⁾, 山本 真由美²⁾

1) 徳島大学大学院総合科学総合科学教育部 2) 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アント・サイエンス研究部

1. 問題と目的

2012年8月末に、東海地方以西を中心に甚大な被害をもたらすとされている「南海トラフ巨大地震」の被害想定が内閣府から出された。被害想定によると徳島県は死者数 31,000 人、負傷者数 34,000 人、要救助者数 22,000 人、全壊家屋数 133,000 棟、浸水面積 73,8 km²とされている。また、津波の平均の高さは 14m、最大の高さは 24m となっている。そして、高さ 1m の津波が押し寄せまでの平均時間は約 6 分間とされている(赤谷, 2012)。この巨大地震・津波の発生は「いつ起きるかわからない」状況にある。地震や津波によって、徳島県にどの程度の被害があるのか、その時にどこにどのように避難すればよいのか、また、日頃からどのように準備をすればよいのかを予め、知っておくことは防災という観点から必要である。また、学内にいる留学生をはじめとする日本語を母語としない人に対して地震や津波に関する情報をそれぞれの母語で知らせることも重要なことである。

そこで、学生を対象とし、災害や防災について、災害が起きた時のボランティアや防災のボランティアなどについての意識を質問紙調査によって明らかにしたので報告する。それと共に、外国人の災害と防災への意識を高める目的で、災害と防災に関する情報を中国語とトルコ語に翻訳したものも合わせて報告する。

2. 方法

2-1. 質問紙調査

1. 調査協力者：徳島大学大学生 107 名
2. 調査実施時期：2012 年 10 月 25 日と 11 月 5 日
3. 実施方法：発表者のうち 1 名の教員の授業において、調査の目的を発表者の学生が説明し、同意の得られた学生に回答を依頼し

た。回答後、災害や防災に関する講義を実施し、その効果を再度、質問紙に回答することから得た。

4. 質問項目

質問調査の内容は、以下の通りである。

- a. フェイスシート：性別、学部学科と学年
- b. ボランティア活動：ボランティアという言葉の意味理解度、ボランティア活動への興味・関心の程度、ボランティア活動に興味や関心がある理由、ボランティア活動への参加状況、災害時に参加したいボランティア活動とその内容。
- c. 防災について：防災という言葉の意味理解度、防災への関心の程度、防災マップやハザードマップへの関心の程度、防災行動、避難場所情報の認識度。
- d. 災害について：災害被害状況、東南海・南海地震への関心の程度、居住地域の安全度に関する認識度。
- e. 受講後の意識変化：ボランティア活動への意識、災害に対する意識、防災に対する意識。

2-2. 災害と防災情報の翻訳

(中国語とトルコ語)

発表者の 2 名は、中国からの留学生であり、中国語とトルコ語が母語であった。気象庁から出されている震度級数別の揺れの概要と津波についての情報をそれぞれの母語で翻訳した。

3. 結果と考察

3-1. 質問紙調査

調査協力者の男女別内訳は、表 1 に示す通りである。欠損値があったので、105 名となっている。

表1. 男女別回答人数内訳

性別	男性	女性
人数	60	45

調査協力者の所属は、表2に示す通りである。

表2. 学部別学年別人数内訳 (人数)

学部 学年	総	工	薬	医	社会人
1年	39	42	4	2	0
2年	2	3	1	0	0
3年	3	2	0	0	0
4年	1	0	0	0	0
無	0	0	0	0	1

ボランティアという言葉について、言葉を知っているのは100%であり、その意味も知っている割合は73.6%であった。ボランティア活動に関心があるのは、76.7%であった。ボランティアという言葉は、周知されていて、活動に関心のある人は多いと言える。実施にボランティア活動をした人は73.8%であり、関心があるだけではなく、実際に活動している人も多いと言える。

防災という言葉を知ったことがある人は、99.1%であり、その意味も知っているのが81.3%であり、ほとんどが知っている。防災に関心があるのは、76.6%であった。実際に行っている防災行動の内容は、37.4~2.8%であり、内容によってばらつきが見られた。

災害について、被害や危険を感じたことはないのが21.8%であった。多くが何らかの災害に遭遇している。東南海・南海地震に関心があるのは、89.7%であり、関心は高い。被害予想について知らないのは、41.1%であり、関心の程度と被害予想についての認識には少しずれがあると言える。

南海トラフ巨大地震について、災害と防災活動、およびそれらのボランティア活動についての講義を実施した後の調査では、ボランティア活動について意識の変化があったのが、64.8%であった。そのうちの98.5%が「実際に参加したい」、「活動に興味を持った」と回答している。次に、災害に対する意識の変化があったのが、75.2%であった。そのうちの97.4%が「災害に対して興味や関心を持った」、「居住地域の想定震度等について調べよ

うと思った」と回答している。防災に関する意識の変化は、78.0%に見られた。そのうちの全員が「防災に興味・関心を持った」、「防災行動を実際に行おうと思った」と回答している。

3-2. 災害情報等の翻訳

地震の震度級数別の内容について、表3に震度5弱の説明を例として示した。

表3. 震度5弱の揺れの説明

日本語	<p>大半の人が、恐怖を感じ、物につかまらな いと感じます。</p> <p>棚にある食器類、書棚の本が落ちることが あります。</p> <p>固定していない家具が移動することがあ り、不安定なものは倒れることがあります。</p>
中国語	<p>大部分的人感觉到恐怖, 会感觉想要抓住或 扶住东西。</p> <p>橱, 柜子里的餐具, 书柜里的书等等会被晃 下来。</p> <p>未被固定的家具可能会发生移动, 不安定, 不稳定的东西会掉落下来。</p>
トルコ語	<p>Kop sandiki adamlar korkunux hes kilip, bir narsini tutiwalgusi kelidu.</p> <p>Tanilardiki yemakliklar, kitaplar seyirli p quxup ketixtak ahwallarmu bar.</p> <p>Mukimlaxturilmigan a ila saymanlirining orni yotkilip ketix, orulup ketixtak ahwallarmu bar.</p>

これらの結果から、学生に対して災害や防災に関する教育を行うことは重要であり、効果が期待できると言える。また、地震の揺れによる変化を予め、知っておくことは防災に役立つと思われるので、徳島にいるさまざまな国の母語に災害と防災の情報を翻訳し、それらの人々に情報を提供していくことが必要と考える。

4. 引用・参考文献

赤谷拓和 南海トラフ巨大地震最新想定
Newton ニュートンプレス 2012年11月号
56-67.